



# ハタラクヒト

---

## \*ペディア 11

< 赤木広紀氏 >

---

田中永子

---

## はじめに

---

はじめまして、田中コーチングの田中永子と申します。

私はNLPやコーチング、ソースなどを学び、それらのノウハウや考え方を活かしたコーチングを提供しております。

この度、新しい企画といたしまして、おもに愛知県名古屋市、刈谷市を中心にお仕事をしていらっしゃる経営者の方々や企業や組織の幹部の方々へのインタビュー企画をスタートいたしました。

この企画を始めようと思った趣旨は、将来の先行きが見えづらい現代社会において、第一線でバリバリと働いていらっしゃる現役の経営者の方々、企業幹部の方々が、今何を考えているかということに興味を持ったこと。そして、その考え方に基づいてどんなアクションを起こしていらっしゃるのだろうと思ったことにあります。

また、こうした第一線でご活躍の方々のさまざまな角度からのメッセージを他の多くの実業家の方々と共有したいと思ったことも大きなモチベーションとなっています。

その他、高校生や大学生の方、これから社会に入っていこうとする方にも読みやすいように心配りをしておりますので、ぜひご愛読をいただけましたら幸いです。

個人的な考えではありますが、愛知県はモノづくりの聖地であると考えております。このモノづくりの聖地である愛知県にあって、日夜、しのぎを削っていらっしゃる多くの企業人、組織人の生の声をお届けしたいと思っております。

よって、このサイトの大きな特徴として、インタビュー形式のログをそのまま読者のみなさまにお届けするというスタイルを取っています。インタビューさせていただく私と、インタビューを受けてくださる方の真剣勝負。

行間の中に潜む間も大切なメッセージだと考えております。

第11回は、  
株式会社ファインネットワーク 代表取締役でいらっしゃる 赤木広紀さんです。

赤木広紀さん



人が「本来の自分に気づき、本来の人生を生きる」ことを支援する。これが弊社のミッションです。

そのミッションに沿って、自分の可能性をもっと開花させたいという経営者やビジネスパーソン・専門職の方々を対象に、パーソナルコーチングやセミナー・ワークショップを提供しています。

プライベートは1人娘の父親。

子供の自然な感情表現や制限のない自由な発想から気づきを得る瞬間にこの上ない幸せを感じる今日このごろ。

また、ビブラムファイブフィンガーズ（五本指シューズ）を履いて大地と風の流れを感じながら、「今ここ」に意識を向けて歩くのも、大好きです。

学生時代からの愛読書は、「かもめのジョナサン」「イリュージョン」「ゲド戦記」。

この3冊の本は今でも読み返すたびに気づきがあり、コーチングセッションに多大な影響を与えてきた私にとってバイブルとも言える本です。

好きな映画は「マトリックス」「ロード・オブ・ザ・リング」「ビューティフル・マインド」「クラウド・アトラス」。

どの映画も人間というものについて深い理解を与えてくれ、見るたびに発見があります。

連絡先：株式会社ファインネットワーク

電話番号：075-951-6310

メール : [info-c@finenetworld.com](mailto:info-c@finenetworld.com)

◆大人も子供も、時間も暦も、人間の都合で区別したもの

田中永子（以下、田中）： 私が今こういうふうにしてるって、ほんと広紀さんとの出会いが大きいなと思って。

赤木広紀さん（以下敬称略、赤木）： 最初の出会いっていつでしたっけ、『ソース』？

田中： ソースなんですよ。

※『ソース』とは、教材やワークショップを通して、自分が本当に求めているものを見つけていく自己発見プログラムの名称。アメリカのシアトル州元上院議員、故マイク・マクマナス氏が開発した。

赤木： ですよ。キットを買ってくれたのが、最初でしたっけ？

田中： そうなんです。

赤木： それでフォローのコーチングセッションをしたんですよ。そんな記憶があるんですが。

田中： そうなんですよ、広紀さん。すごい記憶力です。

赤木： うんうん。で、ソースのワークショップにも来ていただいたんですよ。あれ、たしか1月に、開催した時のだったかな。

田中： はい。ご案内いただいて。「トレーナーになりたい」って話をしたら、「ワークショップを受けたらトレーナーになれるんだよ。1月に開催するよ」って。それで、広紀さんに初対面（笑）

赤木： はいはい、そうでした。だから、お会いしたのは、あれが最初になるんですね。2006年、もう7年前の話だなあ。

田中： そうなんですよ。それが、こちらの方に、ぐっと方向が変わるきっかけだったんで。

赤木： あー。

田中： 広紀さんも、お子さんが生まれたりとか。

赤木：　そうですねえ。もう6歳になりましたから。

田中：　ねー。

赤木：　大きくなりましたね（笑）

田中：　6歳だと、今度、小学校ですか。

赤木：　そうです。そうです。

田中：　わあ。小学生のお父さまじゃないですかー（笑）

赤木：　歳をとるというのも、凄いことだなと。うん。そんな手え叩いて笑わんと（笑）

田中：　いやあ、喜んでるんですよ（笑）あの時にご結婚はされてましたけど……まだ？

赤木：　そうですね。あの頃はまだ子供いなかったからね。バリバリ動けたピークですよ、あの頃は。

田中：　え？何言ってんですか。

赤木：　いやいや、やっぱり子供が生まれると、なんていうか、働き方が変わるというか。

田中：　どんなふうに変ったんですか？

赤木：　やっぱり、子供中心の生活になるというか。もちろん仕事はしてるけど（笑）それでもなんか、子供と過ごす時間とか、そういうところに意識がいくんですよ。まあ、大きくなったら、基本子供って、親を離れて友達同士で遊ぶ時間とかが、自然に増えていくじゃないですか。ま、そうじゃない時期は、「子供の成長を見ておきたいな」っていうふうに思ってた。

田中：　そうなんですよ。子供と一緒にいられる時間って意外と短いかもしれないなって。

赤木：　そうですね。とくにこの6歳くらいまで、小学校入るまでっていうのは、1年1年の成長がなんか、凄く大きいというか。歩けるようになったりとか、しゃべれるようになったりとか、出来ないことが出来るようになったりとか。

田中：　うん。

赤木： コーチという仕事柄、家に居ながら出来るが多かったんで、そういった意味では子供と接しながらできたっていうのは、ほんとこの仕事の形態で、よかったですね。ありがたいなあと思いますよ。

田中： ですね。それはあるかもですね。女性だと、子供を産んだ時点で生活が変わるっていうのは、よくお聞きするけど、やっぱりお父さまも変わるってあるんでしょうね。

赤木： うーん。これがもし、ぼくが勤め人をやっていたら、そんなには変わらなかったかもしれないですけどもね。土日の休みに子供と接して、みたい。でもまあ、結婚したのがコーチをやり始めてからになるんで。

田中： うん。

赤木： なので、そういう意味では、毎日保育園に子供の送り迎えに行くって感じで。

田中： そっか。それもいい感じですよ。

赤木： うん、なんか。こういう時間っていうのはいいもんですよ。まあ、孫が出来たら、また同じような感覚になるかもしれないけど。

田中： 笑 まだちょっと先ですね（笑）

赤木： かなり先の話で、そうなるかどうか分かりませんので（笑）

田中： お子さんが出来て、広紀さんの中で何が広がった感じがしますか？

赤木： あー。なんか……人が成長するっていうのが、どういうことなのかというのが、イメージじゃなくて、実感出来るというか。

田中： うん。

赤木： さっきも話したけど、歩けない状態から、歩ける状態になるとか。言葉をひとつひとつ覚えていったりとか。出来ないことが出来るようになっていくプロセス。それを間近で見ていると、「人って、本来こんな姿なんだなあ」と。うん。

田中： なんか暖い眼差しを感じる。

赤木： で、大人と子供のどこから、そんな区別はあるのか？ 定義上20歳ってことにしてるけども、あるいは小学校入ったら『児童』になって、それまでは『幼児』みたいなとか。年齢で区別はしてるけれども、ほんとは区切りなんかはないんですよ。

田中： うん。分かる気がする。

赤木： うん。1日24時間なんていうのも、それは人間が人工的に決めたわけですよ。地球が1回転するのを1日にしよう、みたいな。

田中： うん。区切りがいいしね。

赤木： 区切りにしただけの話であって。人間が作ってるわけですね、暦なんてものは。ほんとは、そうやって、人っていうのは連続的で、区切りが明確にあるわけじゃなくて、植物の成長と同じように、連続的に変化していく何かなんだなあって。

田中： あー。たしかに、寝なかったら24時間の区切りってないですもんね。

赤木： そうそう、そうなんですよ。そういうのがあると、凄く便利だし、ないと不自由する方が多いと思うんですけども。まあ、何が言いたいかっていうと、大人っていわれてる人も、やっぱり何かしら変わっていく。

田中： うん。

赤木： 人って変わり続けている生きものなんだなあって。

田中： 変化し続ける。

赤木： 変化し続ける。で、変化なんです。『成長』とか、『成長し続ける』っていう概念は、人間が持ち込んだものであって。でも常にあるのは、変化。変わり続けているっていうこと。

田中： あー。そっか。成長というのは、一種の、『前と比べて』とか。

赤木： うん。そうそうそう。「よくなる」みたいな。

田中： それは人間が決めたことで。



赤木：　そうです、そうです。何かしらの基準があって、前よりもこういうふうになったら、「よくなる」「大きくなる」というようなことが、要は「成長」。

田中：　はい。

赤木：　「そうじゃなくなる」、あるいは「マイナスになる」みたいなことを、『退化』だったり、『衰退』とかっていうふうにして、決めてるわけなんですけども。

田中：　それは人間が決めてる。

赤木：　そう、人間の基準で。

田中：　だけど、変化というのは、天気が変わるようなものであって。

赤木：　そうですね、まさにその通り。

田中：　そういったものが、変化。

赤木：　変化。

田中：　爪が伸びるっていうのも、変化。

赤木：　変化です、変化です。

田中：　成長じゃないですね。

赤木：　人間の基準に当てはめると、上がったたり下がったり。成長したり、退化したり、進歩したり、みたいなふうになるんだけど、常に起きてるのは、変化。前とは違うという、まさに刻々と。天気の移り変わりの如く。

田中：　それは感情であったりとか、そういったものを一切はさまずに、ただ淡々と流れていくようなもののような感じがします。

赤木：　うん。そうですね。なんかそんな目で、人を見ることができるようになった時に、いろんなことが起こるわけです。

田中：　出来事として。

赤木： 出来事として。仕事でも、うまくいく、いかないとか。人間関係でも悩んでるとか、よくなったとか。いろんな出来事、ドラマがあるわけなんですけど、変に一喜一憂しなくなったという。かといって、淡々と見ているのとも違う。あたたかく見守りながら。

田中： すごく静かで。でも、ちゃんと温度はある感じですね。

赤木： うん。冷静に見ているのとはちょっと違う。そんな眼差しで、人を見られるようになりつつあるかな。まあ、ほんのちょっとずつですけどね。

田中： なんか、いい感じですね。

赤木： まあ、自分自身に対しても、少しずつそんな眼差しで見るように意識してるところ。他人をそんなふうに見る方が簡単なんだけどね。

田中： そうですね。

..... つづく ^^

◆人一倍、悩み苦しんできたからこそ、コーチという職業を選んだ

赤木： のりちゃんもコーチをしてるから分かると思うけど、他の人をコーチングするのは簡単なんです。

田中： 自分のことに焦点が向くと、容赦がない時ってあります。

赤木： そうそうそう。自分をコーチングするのが一番難しい。ただ、だからこそ逆に言うと、他の人に対してコーチング的に接していけばいくほど、自分に対しても優しくなっていくのかなあって思う。

田中： あー。

赤木： 出来ているから、コーチをやれるのではなくて。むしろある面、人一倍悩む、苦しむ。それをなんとかしたいと思ってきた人が、コーチやカウンセラーになったりすると思う。だからまず、学んできたこととか、やってきたことを他の人に対して提供し、人が変わっていくお手伝いをしていく中で、いつの間にか、自分の人生も良くなっているというか、変わっていく、そんな気がするんです。

田中： ええ。

赤木： 自分がちゃんと出来たら、人に対してコーチングするというのとは、実は違うんじゃないかな。完全な人なんていないんで、むしろ不完全であったとしても、自分が出来ることをやって、それでお役に立つ。そして、お互いに変化していく……そんなふうに思ってます。

田中： そうですね。ほんと不思議なんですけど、セッションしてると、クライアントさんのテーマって、結構自分にリンクしてる（笑）

赤木： あー。ぼくもよくリンクしてるなって思いますよ（笑）

田中： ふふふ。

赤木： いい意味でも、そうでない意味でも。

田中： そうすると、セッションしながら自分を観てるっていう。振り返ると「あれ、自分に言っていたのかも」って（笑）

赤木： そうなんです。山ほどそんなことがある。そこで「自分もできてないから、これはクライアントに言えないな……」と思って、そこで言わなかったとすると、それはクライアントさんにとっても、マイナスになる。自分のことは一端、脇において、棚に上げて関わるのが大事だなあと。

田中： 立ち位置が違いますよね。コーチとして接する時、とりあえず置いといて。横にいるんだけど、俯瞰を試してみたり、一緒に潜ってみたり。自分がどこの場所に行けるように、フラットにしておくみたいな。そういったのを思ったりしました。

赤木： 「自分は出来てないのに」っていうのは、完全に自分に焦点が当たってしまってるんで、それは横に置いといて。同時に、そう……なんだろうな……。まだ、明確に「こうだ！」と確信を持って言えないんですけど、人として関わるというか。コーチも人間なんで、人として課題を持っていたり、弱さもあったりする。そういう面を出すことによって、クライアントさんがほっとして、逆に前に進める時もあるなあと。

田中： ふふふ。

赤木： なんとなく分かります？（笑）

田中： 悩んでるっていうと、変ですけどね。「私も似たようなことがあります」みたいなことをポロリと言ったその一言で、相手も「あ、そうなんだ」って。こう、クライアントさんの力が抜ける瞬間みたいな（笑）

赤木： そうそう。力が抜けて、逆に前に進めるっていう。まあ、あまりにも「私も出来ないんですー」ってばかり言っていると、「おまえ、もうちょっと頑張れよ、コーチだろ」ってなるんだけど（笑）

田中： 笑

赤木： クライアントさんが、「コーチは出来てるのに、私はできてない……」というところに捉われてると感じた時は、「私もあなたと同じで、悩みながらも前に進もうとしてる、ひとりの人間なんですよ」といった部分を知ってもらうことで、クライアントさんは前に進めるなあと思うんです。

田中： 友人にも言われたんですけど、「人間って、隙が大事なんだよ」って言われたことがあって。

赤木： あー。確かに。

田中： それがあると、それが人間らしさに通じて。一種、コーチとか先生って、「答えを持って人」って思われてる部分が往々にしてある感じがするんですけども。でも、本当はそうじゃなくて。「答えを探しながら、いるんですよ」っていうものに通じる気がして。それを伝えることで話を聞いてもらいやすくなるように思います。

赤木： そうなんですね。人間味とか人間らしさというのは、さっきのリちゃんが言った「隙」。ある面、ウィークポイント、出来てないところ、抜けているところ、その部分が「その人らしさ」に繋がって来るなあって。

田中： らしさ、なんですね。

赤木： その部分を「だめだ」と思って、克服しようとするけれど、それをしているうちは、どんどん立派な人になるかもしれないけど、人としての魅力みたいなものは、逆に減っていくのかなあって。

田中： あー。いっぱい服着こんでく感じがする。

赤木： まさにそんな感じ。そうそう、立派な十二単を着て、傍からは「立派なお姫さまなのねえ」って思われるみたいな。「私とは違う世界の人ね」って。でも、だんだん脱いでいくと、お風呂場でね、「おんなじやなあ」って。「おなか、出てるし」みたいな（笑）

田中： 私の場合なんですけど、セッションの前は、出来るだけ服を脱いでいようというイメージで向かうんですけど。クライアントさんに脱いでもらうには「まず自分が脱がなきゃ」って思います。

赤木： 確かにね。

．．．．． つづく ^^



◆自分が素になれば相手も素になるから、常に自分自身をチェックしている

田中： 広紀さんは、コーチングセッションの前に、何かやってることとかあるんですか？

赤木： 継続してのクライアントさんに対しては、気持ちを整えて臨むとか、それぐらいですけど、新しいクライアントさんになると、緊張するというか「ちゃんとせな」って気持ちが、やっぱ出てくるんですね。

いいふうに思われたいっていうのとかが、最初は出やすいかなあ。でもそれが出ると、相手を逆に緊張させてしまうっていうのも、よくよくわかるから、最初のセッションでは、「僕も緊張してるんですよ〜」って、こっちから切り出すことはありますね。

田中： ええ。

赤木： 結局自分が、「素の自分」になればなるほど、結果として、相手も素でいられる。まさに「鏡の法則」。なので、いかにこっちが素の状態になるかっていうことかなあって。

田中： その状態になるための儀式みたいなものってあるんですか？

赤木： うーん。こうやれば.....みたいなのは特にはないんですけども、今の自分の状態を、敏感に感じ取りながらセッションをするということですかね。

田中： もうひとりの自分がいる感じですね。

赤木： そうですね。だから、コーチングしている自分を客観視、俯瞰していて、モニターでチェックしてるって、そんな感じかな。

田中： 広紀さんって、感覚の部分とモニターでチェックしてる精密な部分とが、同じぐらいの割合である気がします。

赤木： うん。確かに自分がどういう状態なのかは、結構チェックしてるかな。

田中： 今もモニター見てますよね（笑）

赤木： うん(笑) だから、そういう自分自身の状態を、微細な感覚をキャッチするということをやっていると、クライアントさんの声のトーンとか、そういう微妙な変化をキャッチしやすくなるんで。

結局は一緒なんですね、自分の状態をキャッチするのも、相手の状態をキャッチするのも、おんなじ五感を使ってるから。

田中： 絵的には、音楽を収録するミキサー室が浮かんできました。レコーディングで、前で歌ってる人を見ながら、音を調節してる広紀さん。

赤木： うん。そこで「何を見てるか？」っていったら、その人のエネルギーの流れなんですよ。まさに「ソース」じゃないんだけど、クライアントさんがイキイキしてる時に発せられるエネルギーと、何かに引っかかって、スッと流れない時、「何かが詰まってるな」って感じる時、その微妙な違いをキャッチすると。

田中： ええ。

赤木： ニュートラルに自然にスムーズに流れてる時と、水圧をかけてブワッとエネルギーが出てくるような時と、どっかに引っかかってエネルギーがうまく出ていない時と、大きく3つあるかなあ。

田中： うん。

赤木： 水圧高く、ブワッと出てる時は、車でいうなら実はサイドブレーキが入っていて、ブレーキペダルも踏んでいて、それ以上にアクセル踏んでる状態だから、前には進むんだけど、回転数が上がってる割には、スピードが出てないっていう。

田中： ウイリーぽくなっちゃてる感じですね。

赤木： そうですね。そんな感じで、ブウンってふかす感じ。ニュートラルな感じは、ブレーキは踏まずにアクセルもそんなに入れてない、だからオートマチック入れたら勝手に走り出すような。

田中： ハイブリットであれば、エコの部分で走る感じですね。

赤木： そんな時は、すうって流れるような感じで、ものごとがストレスなく進む。

田中： サイドブレーキ引いたまま走ってる……という表現が面白い（笑）

赤木： 僕もだけど、そういう人って多いですよ。別にニュートラルがいいっていうわけじゃな



くて、そういうエネルギーの流れ方があるなってことで。

田中： うん。

赤木： ただ、自然な状態になればなるほど、楽に望む状態に近づいて行けるのかなあとは思いますが。

田中： エコな感じで。

赤木： エコな感じで。エゴからエコへ。

田中： うまい（笑）

赤木： ありがとうございます（笑）

田中： パターンによって、触るところが違いますよね。

赤木： そうですね。なにせよ、ニュートラルに自然に行ける……。うーん、そこまで行ったら、僕の中では、一つのゴールだなって。エコで走れるようになったら、後はどうぞ自由にと。

田中： ひとつの目標でひとつのゴールがあって。人生っていろいろあって、ひとつクリアすると、またひとつ出てきて、みたいな。

赤木： そうなんです。

田中： この時は、こうすればニュートラルになれたんだけど、新しく来たものに関して、どうやったらニュートラルなるのか分からない……。みたいな。そうすると、そこがまた新しく一から始まるような。

赤木： そうですね。テーマが微妙に違うんですね。根源的なところを見ていくと共通してることもあるんで、そういうところを扱えるようになると、例えば人間関係も良くなるし、お金の流れも変わってくるし、仕事に対する情熱が出て来たりということが起きるんですね。

田中： うん。

赤木： でも、いきなりそこへは行きづらい。なので、まず最初は表面的に見える課題、「何

かひっかかっているな」って思うことを少し緩めるといふか、外していくと前に進んでいく。

田中： その方の今いる位置に合わせていく感じですよ。

赤木： そうですね。

田中： 今、私の頭の中に浮かんでるのは、NLPの「ニューロ・ロジカル・レベル」の三角形です。環境からだんだんと上位概念のスピリチュアルに昇っていく。三角形の一番上の部分である『アイデンティティ』、さらに上の『スピリチュアル』にいかに進んでいくのか。いかにそこに昇って行くのか、あるいは、掘り下げていくのか。あ～、話してたら一緒のような気がしてきましたけど。

編集注：ニューロ・ロジカル・レベルとは、ロバート・ディルツがまとめたピラミッド状の五段階の階層構造モデルのこと。人の自己認識を最下層の環境レベルから、行動レベル、能力レベル、信念・価値観レベル、アイデンティティレベルに分類している。ここでは、アイデンティティレベルよりもさらに上位概念のスピリチュアルレベルの話をしている。ここでのスピリチュアルとは、「自分を超えたもの」という概念である。

赤木： うん。人間って、元々スピリチュアルな部分っていうのを持ってるんだけど。これって子供を見てると分かるんだけど、「親に喜んでもらいたい」っていうやさしい部分と同時に、エゴのかたまりな部分と、両方持っているんですよ。よく「子供は純粋だ」とよく言われます。確かに子供は純粋なだけども、同時に無邪気なんですよ。

田中： そう（笑） 本能のかたまりですもんね。

赤木： 本能のかたまりなんで。子供のああいう純粋な状態が素晴らしくて、大人がいろいろ頭で考えるのはダメっていうのは、ナンセンスな話だなあと。だから、子供の状態に戻るのがいいとは、まったく思わない（笑）

田中： ふふふふ。確かに。

赤木： 世のお母さん方に「子供は純粋で素晴らしいですよ」なんてこと言ったら「ふん！」って鼻で笑われますよ。それは、ちょっとでも子育てに携わったらわかることで。

田中： 子供って、残酷だったりしますもんね。

赤木： そうそう。ある意味、弱さを痛烈に感じてる。子どもは力がない、弱い存在だと痛烈に感じてる。だからこそ自分の身を守るために人を攻撃する。

だから凄い無力感を感じていたり、弱さを感じていたりとか、それが転じて暴力的になったり。でも、それが本来の状態かっていうと、人間の存在そのものは無力ではないし、弱くはないんだけれども。成長過程で「私は弱いんだ」とか、そういう無力感に囚われていく。で、「強くならなきゃ」って、何かを身に纏っていく。力、知識、権力、お金であったり。

..... つづく ^^

## ◆黄金に輝く仏像の逸話に感じた人間の成長

田中： 広紀さんが感じていらっしゃる、人間にとっての成長って、どんなふうに捉えていらっしゃるんですか？

赤木： そうですね。仏教のある説話の中に「ああ、そうだなあ」と、腑に落ちた話があるんですけど、少し話していいですか？

田中： ええ。

赤木： ある若者が家宝の仏像を手にしたが、汚れて茶色くなっていて、「これでは見栄えが悪いので金箔を貼ろう」となった。そうして金箔を貼っていくんだけど、途中でぽろぽろ剥がれていく。でも、頑張ってお金を貯めてさらに金箔を貼っていくと。

ある時、若者のおじいさんが旅から帰ってきた。若者は金箔を貼った金ピカの仏像を見せたかったけれども、茶色く汚れた部分が残っていた。おじいさんが仏像を見た時に「おまえが生まれる前だから、知らなかったと思うが、この仏像は泥に落ちて汚れたのだ」といって、汚れていた部分を拭きとっていくと、中から黄金に輝く仏像が現れた、という話なんです。

この話を讀んだ時、人が変化、変容していくってこういうことなんだと凄く思ったんです。

元々は黄金の像なんです、私たちは。でも生きていく過程で、泥にまみれていくと。なので、まず私達は、泥を人に見られたくないと、金箔を貼って取り繕おうとする。それが力をつけて強くなろうとすることなんです。まあ、力のつけ方は、人それぞれで、「馬鹿だといじめられたから、賢くなろう」とか、「ケンカに負けないように空手を習おう」とか。そうやって金箔を貼っていく。

田中： だけど、違うんですね。

赤木： はい。ある程度はそれでいけて、周りの人も「凄いね！」って褒めてくれたりするんだけど、どっかで限界が来る。ずーっとは強くなれない、賢くはなれない。上には上がいるから。でも、見たくなかった目を背けたかった茶色くなっている部分をよく見て、磨いていくと中から黄金が現れてくる。

田中： うん。

赤木： 人生っていうのは、大きく分けて2つの時期に分かれるなあと。身に着けて身に着けて

、もうこれ以上は着れないというまで、身に着ける時期（笑）

田中： 着ぶくれちゃう（笑）

赤木： そうですね。で、今度はそれを脱ぎ捨てて行って。要は金箔を剥がして行って、泥を拭いて行って、本当の黄金と出会う。だいたい、そういう順番になってるなあって。

田中： お話を伺っていると、広紀さんは今、泥を拭きつつあるのかなって。

赤木： そうですね。

田中： その、脱ぎ始めたきっかけって、何かあるんですか？

赤木： 脱ぎ始めたきっかけっていうのは……。ある程度頑張ったら、成果って、出るんですよね。でも、成果は出るんだけど、「バーンアウト」というか、燃え尽きてしまって、虚しさが残る、そんな体験をしたんですね。やればやるほど、しんどくなる体験を何度かしたときに「あれ？」って。「このまま走り続けるの、無理だな」って。

田中： うん。

赤木： そこから、いろいろな気づきがあって、泥を落としていく、身につけたものを脱いでいく人生に入っていったんですね。

田中： それにスイッチした、きっかけの出来事みたいなものとかあってあったんですか？

赤木： あー。きっかけは、ある方のワークショップです。それを受けて、これまでの体験が全部繋がったというか。それが、ひとつのきっかけになりましたね。

田中： そのなんとなく漠然と感じていた道筋がちょっと見えるような。そうすると、「そっちに行ってみよう」って感じになりますよね。

赤木： 身体は正直なんで、何かを目指してがむしゃらに頑張るっていう生き方は、もう無理というか、エネルギーが湧いてこないですね。ぼくの中に。

田中： 広紀さんは、今とてもニュートラルな感じがするんですよね。

赤木： そうですね。自然にエネルギーが流れる時はいろいろあって。コーチングセッションし

てる時は、ずっとそんなニュートラルな感じですね。だから「10年以上続いているんだなー」って思います。

田中： バルブが丁度よく調節されてる感じですね。

赤木： そうですね。ただ、「そうしよう」という思い、意図は大事ですよ。それがないと前に進まない。「ディズニーランド行こうと思わないと、辿りつけない」ということ（笑）それと全く一緒に、ナビをセットする必要はあるんですよ。

田中： うん。

赤木： どのようにしてディズニーランドまで行くかは、いろいろあるわけですよ。サイドブレーキ引いてアクセルをバーンって踏んでいく、燃費の悪い行き方も出来ますし。

田中： アメ車みたいな（笑）

赤木： アメ車みたいにね（笑）あるいは無意識にブレーキを踏みながら、それに気付かないで走って「なんでこんなにアクセル踏んでるのに、前に進まへんのやろ？」みたいにイライラして疲弊した進み方も出来る。でもブレーキ踏んでなければ、自然にすーっといく。穏やかに、楽しく、ストレスが少ない状態でも行ける。

田中： そっか。だとすれば、広紀さんのコーチングでクライアントさんに持ってもらうゴールは、なんかそこに至る、そのニュートラルな状態へナビするものなんですかね。

．．．．． つづく ^^

◆コーチングに必要な不可欠な『共感』

赤木：　そうですね。だから極端な話、ゴールは何でもいいって言えばいいんですよ。というのは、「なんで、そのゴールを達成したいのか？」っていうところを深く見ていくと、大概は「こういうのはイヤだから、こうなりたい」っていうような……。例えば、「会社がイヤだから、独立したい」みたいな動機があって、そこを更に掘っていくと、その人本来のテーマが、やっぱり見えてくる。

田中：　うん。

赤木：　入口はそれでいいんですね。クライアントさんの出してくるゴールで。だけど、それをそのままゴールにするということはありません。それをきっかけに、その人の本質的なテーマっていうのを見ていきます。

それを、「本当のテーマとしてやっていきましょうか」っていう話をして、コーチングを進めるかどうかを決めていきます。そこからは、本来行きたい場所に、どういうエネルギーで進むかっていうことですね。

田中：　はい。

赤木：　とにかくがむしゃらに前へ進みたいのか、それとも周りの景色も楽しみながら行きたいのかという、そのプロセス。個人的にはそこを「楽しみながら、穏やかな気持ちで行ってほしいな」と思います。

田中：　クライアントさんに選んでもらう感じでもありますよね。

赤木：　そうですね。僕も以前はそうでしたが、ほとんどの人は、「進み方もプロセスも、それぞれ違うものが選べるんだ」とは考えずに、無意識に「それしかない！」って思ってます。

でも、ほんとは強迫観念を持ちながら進むことも出来ますし、焦らずに穏やかな気持ちで進むことも出来るんですね。

田中：　「いろいろカスタマイズ出来るんですよ」っていう、そういった感じでもありますよね。

赤木：　うん。人生はよく旅に喩えられますけども。

田中： うん。

赤木： クライアントさんはとりあえず「ここに行きたい」というゴールを持ってやってきますが、その先に「本当の目的地」があって、そこをちゃんと見ると「ああ、そうか。私はそのために、進んで行きたいんだ」というのが自分自身で分かってくるんです。

価値観とか、その人が大切にしている何かが見えてくると、それが進もうという動機に繋がるので、「何か上手くいかないな」ということがあっても、またそこに立ち戻れば、「よし、やっぱり行こう！」という気持ちになる。そういう本当の目的地というところに行こうという気持ちと、その間のプロセスも選べる。そんなことをサポートしてるんだなと改めて今、気づきました。

田中： 素晴らしいと思います。クライアントさんの状態に合わせて、ほんと大事ですもんね。

赤木： はい。

田中： なんていうか、その方がお話しされることとか、行動って、さっき広紀さんもおっしゃってたけど、その人の根源部分が、にじみ出るというか、醸し出されるので。それがお仕事に関することだけだったにしても、やっぱりそういったものって、見えてくると思うんですよね。

赤木： うん。

田中： そういったものを見せていただくのって、とっても広がるというか。そういう時間になるのが、とてもありがたいです。

赤木： うーん。のりちゃんもいい仕事されてますねえ〜。

田中： 広紀さんのおかげです。こっちの方に来たっていうのも、広紀さんのおかげなんで（笑）

赤木： いや、そんな、そんな。ありがとうございます（笑）きっかけは、確かに提供させてもらったかもしれないけど、そこから先はその方次第ですから。

田中： いやあ、ほんとに広紀さんとの出会いは大きいなあって思っていて。コーチングっていうものも、まだ地元の方だと「何、それ？」って言われることもあって（笑）



赤木： ほー。ということは、まだまだ開拓の余地がある？（笑）

田中： はい（笑）

赤木： いいところですねえ（笑）

田中： まあ、そんな感じなんですけど（笑）いろいろお話を伺っていて、自分を振り返る時間というのか、自分が見えてくる時間だったなあって。

赤木： うん。

田中： だから、コーチングとか、自分を見つめる時間というのは、本当に必要なんじゃないかなあって感じがしています。

赤木： うん。是非経営者の方々がそういう時間を、本当に定期的にね。自分のためであり、会社、社員さんのためでもあり、家族のためになると思うんで、そういった時間をとってもらえたら、いいですね。

田中： そう。インタビューさせていただいて、最後に感想を伺ったりすると、結構「意外に自分のこと、知らなかった」みたいなことを、よくお聞きするんです（笑）

赤木： あー（笑）そんなもんですよね。自分のことは全部知っているって思っても、本当は、ごく一部しか知らない。自分の背中とか頭の後ろって、普通に見えないじゃないですか、ぼくら。

田中： 見えない。見えない。

赤木： 自分のことでも見えない部分が、山ほどあるのが普通なんですよ。

田中： あー。なんか凄く分かる気がします。

赤木： でも、こうやって質問されて、自分が何を大事にしている、どうなっていきたいのかっていうのが見えてくると、同じように「社員さんはどんな思いでやってるのかな？」とか。そこにも意識が向くようになる。

田中： うん。

赤木： なので、経営者の方が、のりちゃんからコーチング受けられると、やってもらったことがそのまま出来るというよりは、そういう視点を持って、社員さんや周りの人を見ることが出来るようになるなと思いますね。

田中： ありがとうございます。さっきのお話で言うなら、そういう視点があるんだよというよな。「こうするしかない」と思っているクライアントさんにも、それだけではないという視点を持っていただくというよな.....。

赤木： うん。

田中： なんか、そんな時間でもあるんですね。

赤木： うん。そうですね。「どういう視点を持つかで、どういう気持ちになるか」っていうのは、変わってくるんですね。力の湧く視点っていうのを、持ってもらえたら.....。それを「自分で選べるようになってほしいなあ」と思いますし、うん、僕ももっとそうなりたいです（笑）

田中： ええ（笑）

赤木： やっぱりコーチっていうのは、出来ている人がコーチになるんじゃなくて。ある面、発展途上というか、現在進行形の生き方をしている、コーチとしての生き方を歩もうとしている人が、コーチなんだろうと思います。

田中： うん。

赤木： この道に終わりはないんで。それでいうなら、永遠に出来ない、カンペキにはならない。でも、その道を歩こうとしている人であるならば、それは立派なコーチだなと。

田中： あー。なんか勇気づけられますね。

赤木： うん。

田中： 以前、友人から、「コーチとか、カウンセラーって、変な人になるんだよね」みたいなことを言われたことがありまして（笑）

赤木： うん、うん。

田中： 何か成し遂げたいとか、どうして、こうなんだろうってものを持っていらっしゃる方が

クライアントさんだったりするから、そういった方たちと一緒にいて、それに呑み込まれない人だっていう……。

赤木： うん、うん。

田中： で、「そんな人と一緒に水に潜るんだけど、命綱は持ってる。ギリギリまでいて、自分を見失わないでいられる。で、そういったところに好奇心を持っていられる、そんな変な人がなるのがコーチングなんだよね」みたいなことを（笑）

赤木： うーん。その方の言うとおりでなあ。よく理解されてますねえ、そのお友達（笑）

田中： 私も、ほんと、そうかもって（笑）

赤木： うん。その例え、その通りやと思う。

田中： そんなところに好奇心を持って、つい見てしまう。でも、危なくなったら、ちゃんと引き返してこれる（笑）

赤木： うんうん。ほんとに同じような喩えを、僕もよく使うんですよ。川で流れされている人の話なんですけど。

その人に岸から「おい。大丈夫か？」って叫ぶだけではなくて。かといって、バーンと飛び込むんじゃなくて。ミイラ取りがミイラになるわけではなく、木にロープを巻いて、自分も川に入ると。

田中： うんうん。そういった人たちが、コーチだったり、カウンセラーだったりするんですね。

赤木： 上から立派な教えを言ってるだけっていうのは、要は水の中に入ってない。苦しんでいる状態に共感していない。それだと、助からないし「おまえには無理だろう、わからないだろう」ってことになりますし。

田中： うん。

赤木： 一回、そこにドボンとつかる。

田中： 水に入るんですね。

赤木： 水に入る。それはどういう事かと言うと、相手の感じている気持ちを共に共感する。共に感じる。それは苦しさだったり、つらさ、願いだったりとか。それを感じ取ろうとする。

田中： うん。なんか、広くてあたたかい。いい感じの温度、ぬくもりみたいな。その場所がすごく広くなったような気がするんです。前からも、とてもいい感じだなんて思っていて。それで、私もそちらの道に進むきっかけになった、広紀さんなので。それを感じてたんですけど。

赤木： うん。

田中： その場所が、とっても広くなったような感じがします。

赤木： あー。ありがとうございます。

田中： 面積がとても広く。床暖房みたいな（笑）

赤木： んふふふ。

田中： 広く、深く。前、NLP行かせていただいたんですけども。

赤木： はい。

田中： 「自分を知ること、相手を理解すること」をおっしゃってて。フォローセミナーに行った時にカウンセリングセッションだったんです。その時に自分を見て行った時に、ひし形の図が出てきて、私の中に。

赤木： うん、うん。

田中： それが立体で。それが観えたのが凄く不思議で、トレーナーに「こういったものが観えた。だけど、すごく納得してる」ということをお話ししたんです。

ひし形を真ん中で切ると、三角錐がふたつの形になる。頂点が上になってる三角錐が今の自分。逆さになってる、頂点が下になってる三角錐。氷山でいうと、海上と水の下。だから「そういうふうに観えたのは、正しい形なんだよ」って。すみません、私、変なこと言ってる（笑）

赤木： いやいや。

田中： 上に登って行くような……。下に掘って行った部分っていうのは、その分上に反映されるっていうイメージがあって。それがどんどん深くなればなるほど、上にも影響力が出る。

赤木： うん。

田中： 海上に出るものも大きくなるのかなって。そんなことを感じたことを、思い出しました。

赤木： うん。自分を理解することが、相手を理解することに繋がる。自分も相手も人間なんで、自分という人間を理解すると、相手という人間を理解できる。人間という点では共通ですから。

田中： ええ。

..... つづく ^^

◆自己探求から「誰のために、何かのために」をお返りする段階へ

赤木： で、今まで、そういうところに好奇心が強い人間だったんで、そういうことを、ずーっと探求してきたわけなんです。

田中： ええ。

赤木： でも、ある面、それは自分のためだったんですね。自分の興味、関心をただ追求してきただけ。もちろん、それをコーチングという形で、クライアントさんに還元してきたんですけどね。でもこれからは、もちろん探究の旅は終わることはないんだけど、自己探求を続けるというよりも、今まで得てきたものを、お返りするっていう段階なんだなあって、最近強く思うんです。

田中： ヒーローズ・ジャーニーだと、村に還るところですね。

編集注：アメリカの神話学者ジョセフ・キャンベルが、世界各地の神話を研究していく中で発見した、神話に共通する一連の流れのこと。ジョセフはその共通する一連の流れのことを「ヒーローズ・ジャーニー（英雄の旅）」と名づけた。

赤木： そうですね。帰還、リターンですね。リターンの道のりがこれから始まっていく。ちょうど年齢も、いわゆる厄年（笑）。ユングの心理学でいう「中年の危機」っていう、そういう年齢ですから。

田中： 早い（笑）

赤木： 早いんですよ。もう歳いきましたよ、ぼくも。びっくり。コーチ始めた時、20代やったんですよ。ははは。

田中： コーチングっていうものを考えた時、今のこの時代に、どういった部分で必要なのかわかって。それに答えるとしたら？

赤木： あー、そうですねー。コーチングを提供してる人間がいうのもなんですけども、別にみなさん、コーチングを求めているわけじゃないんですよ。それは、車そのものが欲しいわけではない、というのと一緒で。

田中： うん。

赤木： 車に乗ってどこかに行ける、そういう便利さだったり。あるいは家族で旅行に出かけられることだったりとか。そういう手段として、車を買うというのと一緒に、コーチングそのものが、みなさん欲しいわけではないんですね。

田中： ええ。

赤木： じゃあ、「何がほんとに欲しいのか？」っていうと、Beの部分。Have Do Beでいう。

田中： うん。

赤木： 安らぎだったりとか、あるいは目標や夢を実現したときの達成感だったり、誰かに貢献している時の充実感だったり。そういったものを、ほんとはみなさん求めてるんだらうなって。

田中： 今のお話だと、Beの部分。

赤木： うん。ある面、日本という国は、今、恵まれた時代だなあと。冷静に考えると、こんなに恵まれた時代はなかったはずなんです。収入の多い少ないがあっても、都会に行けば全世界の料理が食べれるわけですよ。イタリア料理もサイゼリアで充分食べれるわけですよ（笑）

田中： 笑

赤木： 本場のイタリアンのシェフが、サイゼリアの料理を食べたとき、イタリアの庶民の料理よりもおいしいって言ってたそうですよ。

田中： 素晴らしい、サイゼリア（笑）

赤木： そう。中世のヨーロッパの王侯貴族よりも、間違いなく贅沢なんですよ、僕たちは。衛生環境や、ギロチンで殺されないとか、治安も含めて。そんな時代になって、初めてコーチングというものが、お役に立てる段階になってるんだらうなあって。

田中： 確かに。

赤木： やっぱり「衣食住」という、安心安全欲求、生理的欲求を満たさなければ、生きていけないという時代には。

田中： なりえない仕事ですよ。

赤木： なりえない。ごくごく一部のブツダとか、そういう「何のために生まれてきたんだ」みたいなことを探究してきたごく一部の人たちのものであって。ほんとに人生をよりよく生きたい、そしてそれが出来る時代になってきたがゆえに生まれてきたものだと。

田中： あー。

赤木： だから、ほんとにそういう願いを持った人の、助けになるものとして、コーチングは現れてきてるなあと思います。

田中： 求められてる感じ。

赤木： そうですね。どんな時代でも、こういうことを思っていた人はいたはずなんですね。哲学者であったり、宗教家であったり。

田中： そうですね。脈々と続いてきてるわけですね。

赤木： はい。ほんとに「よりよく生きたい」っていう。100年くらい前なら「ナポレオン・ヒル」とか、成功哲学とか。そういったものって昔から脈々と流れ続けてるんですけど、それが一部の特殊な階級の人たちにだけではなくて、望むならば誰のものにでもなっていく、そういう時代になってきてるなと思うんですね。

田中： コーチングセッションの時間って、Beの部分を探す、掘ってく時間なのかなあって思います。

赤木： うんうん。

田中： そのためには、泥の部分の拭いていかないとはいけませんしね。

赤木： うん。結局、人はひとりでは生きられないって言いますが、誰かのために生きるっていうことによって、初めて生きてるという実感があるんだろうなあ。

田中： うん。

赤木： それを感じられないと、生きてても死んでる状態。コーチングとかを通して、ほんとにクライアントさんになってほしいのは、やっぱりニューロ・ロジカル・レベルでいう、スピリチ



ユアルレベル。「誰のために、何のために生きるのか？」っていう、そこに意識を向けて頂くことで初めて、その人のほんとの人生がスタートするなあと。

田中： うん。

赤木： 安全安心欲求を満たすことも、悪いことではないし、絶対必要なことなんだけども。

田中： ええ。

赤木： そこを超えていくっていうのが、やっぱり人間なのかなあって思います。

田中： はい。

赤木： コーチングというものを通して、ほんとに「誰のために、何かのために」という部分に意識を持ってもらいたいなって思ってますね。

田中： 「ソース」でもそうですよね。根源の「ソース」っていうものに繋がれば、すべてが引き寄せられる。その時のエネルギーって、とても自然な流れですもんね。

赤木： はい。

田中： そんな感じなのかなって。繋がれば、広紀さんがおっしゃるみたいに、自然に、ストレスのない、とても気持ちよく走れる、そういったエネルギーに乗って行けるのかなって。

赤木： そうですね。「誰かのために、何かのために」ってところで。エネルギーが外に出るところで、アウトプット、エネルギーが流れて循環する状態になるなあと。

田中： うん。

赤木： やっぱりエネルギーって循環しないと澱んでいく。インプットとアウトプットですから。

田中： エネルギーの流れで、まずそのどこら辺なのかを観て、それによって対応が変わってくるので、それを見極めてる。それって横にいと、見えないので、高い位置に行って、「今ここ」みたいに見つけて降りてくるみたいな。そういった動きで、クライアントさんも、動いていくんだらうなって思います。

赤木：　そうですね。そういう意味では微妙な相手のエネルギーを見極めていくと、クライアントさんの状態って、凄く変わっていくんですよ。例えば、「こいつ、イヤヤ」、「この上司気にくわん」、「もう会社辞めてやろうか」って思ってた人が、「あー、ここにいてもいいなあ」って思えるようになったり。そんなことが起きるんですね。

田中：　それって選択の幅っていうのもでもあるのかなと。クライアントさんに、「そういったものが、あるよ」っていうのを、お伝えすると同時に、こちらもそういったものを持つ必要があるというか。

赤木：　うんうん。

田中：　それがあつて、指し示すことができる。それって今、広紀さんがおっしゃった体験だったり、そういったものから得ていくものなのかなって思いました。

赤木：　そうですね。体験、経験から。

田中：　お医者さんも、インターン期間ってありますもんね。先生と言われるようになるまでには、修業期間があつて、いろんな症例を観る。教科書ではなくて実感として。さっきのお子さんの話ではないですけど、人間の成長していく、変化していくその過程を目の当たりに見るといふ。それって何物にも代えられないものですよ。

赤木：　同時にお医者さんの場合、そこからがスタートですね。最低限の資格っていうか、この後臨床を積んでいくための、スタートラインに立ったっていう状態ですから。ある面、経験し続ける、もう実地で、患者さんと接する中で、そこを磨き続けていく。

田中：　ええ。

赤木：　これで、出来たつて思つて、そこで終りつていふ。だから永遠に出来ない、終わらない。でもそれが楽しいと思えないと、やれないね。この仕事は（笑）

田中：　ありますね（笑）先日、カメラマンさんにインタビューさせていただいて、その方が言つてたんですけど、撮つたら終わりではなくて、それをパソコンへデータで落としてからが、仕事だつておっしゃつてたんです。

赤木：　ほうほう。

田中：　「あー、この時、こういう角度でもらえばよかつた」とか「目線をこつちで」とか、そ

こからが復習の時間って。

赤木： あー。

田中： だから何年か前に撮った写真を、必要があって見直した時に、もう「いたたまれない気分になった」とかいうお話もして下さって。そうやって常に変化し続けるというか、自分の中にある、美しいと思えるものに近づけていくなどとおっしゃってました。思い出しました、今。

赤木： あー。そうですね、復習の時間。僕も昔は、「自分ってまだまだダメだ〜」って責めていたことが多かったですね。最近はそうでもなくなったんだけど、昔から完璧主義なところがあるので。自分の基準で観れば、まだまだなんだけど、目の前の「クライアントさんはどうか？」というと、実際は凄く喜んでくれている。

もっというなら、セッションではイマイチだったという感想が返ってきたとしても、日常生活の中で「こんな変化が起きました！」といった報告をいただくことが多いので、むしろセッションでイマイチだったときの方が、日常生活では結果が出やすいのかなと思いますね（笑）

田中： 笑

赤木： だいたいうまく行かないパターンってあって。スキルとか、やり方に当てはめようとした瞬間、相手との関係性は切れてしまう。

田中： 確かに（笑）

赤木： 分かるでしょ（笑）

田中： いろんな方とお会いするようになって、コーチにあんまりいいイメージを持ってない方って、多いなって。

赤木： そうなんですよねー、残念だけど。

田中： まず、そこの払拭から始めないとな、みたいな（笑）

赤木： でも、何でもそうなんですけど、悪い印象持たれてる時の方が、楽なんですよ。

田中： そうか。

赤木： うん。要はマイナスからのスタート。恋愛でも当てはまるんですけど、悪い印象を持たれてる方が、「実は、この人いい人やん」となる（笑）最初から過度に期待されてしまう方が「なんや、こんなもんか」とか、「期待外れやったなー」ってなってしまう。

田中： 美人は「減点法」で、不美人は「加点法」っていうのを聞いたことが（笑）

赤木： 笑 コーチに悪印象を持ってる人って、それを話してくれる時点で、だいぶ心許してくれてるってことなんですね。

田中： うん。そういうお話しをして下さるといことがね。

赤木： そうそう。そういうことなんですよ。僕もよく聞きますが、「この人やったら言っても大丈夫」という安心感があるから、その人の仕事のある意味、けなすようなことを言えるわけです。

田中： あー。ありがとうございます！ 本当にいろいろお話し下さって。ほんと、嬉しい。ありがとうございました、広紀さん。

赤木： いえいえ。

..... つづく ^^

こちら、好奇心でかきだした質問表です^^

赤木さんにもインタビュー後、おつきあいいただきました。

まずはどうぞ、みなさんもたのしんでくださいませ★★

### <いろいろ質問表>

- ・月並みですが、小さい頃はどんなこどもでしたか
- ・好きな本を一冊選んでください
- ・いつも必ずする「習慣」はありますか
- ・ねこ派ですか？いぬ派ですか
- ・今までで一番大変だと感じた出来事（環境）はどんなこと（時）でしたか
- ・それのどの部分が大変だと感じたのでしょうか
- ・それをどうやって乗り越えたんですか
- ・その時、大切にしていたことは何ですか
- ・今頭の中にうかんでいる人はだれですか
- ・その人は、何か言っていますか
- ・3つ願いが叶うとしたら、何を願いますか
- ・人と会う時、つきあう時、その人のどんなところをみていますか
- ・人として、これは譲れないっしょ??っていうのがあったら、何ですか
- ・RPGでパーティを組むとしたら、どんなキャラクターを選びますか
- ・因みにそのなかで、あなたの役割（キャラ）はなんですか
- ・それはどんな冒険になるのでしょうか
- ・「攻め」と「守り」自分はどちらだと思いますか
- ・全く何の制約もないとしたら、何をしますか
- ・聞くとムカッってくる言葉ってありますか
- ・どんな時にイラッとしますか
- ・落ち込んだ時、どうやってリセットしていますか
- ・何をしている時が一番たのしいと感じますか
- ・今一番欲しいものは何ですか
- ・あなたの萌えポイントをおしえて下さい
- ・今の自分に大きな影響を与えたと思える出来事を、2つ語って下さい
- ・そこで何に気付きましたか
- ・今の自分を突き動かしているものは、何だと思いますか
- ・今死んでも悔いはありませんか
- ・身体もお金も制限のない状態で、寿命が後一か月だとしたら、何をしますか

- ・世界に向けて演説をするとしたら、何を一番伝えたいですか
- ・生まれ変わったら、男と女、どちらがいいですか
- ・人間以外のものに生まれ変われるとしたら、なにがいいですか
- ・朝起きたら、雨が降っていました、どんなことを思いますか
- ・世界で何かひとつ完全に消滅させられるとしたら、なにを消し去りますか
- ・自分の性格を象徴するようなエピソードがあったら、おしえてください
- ・自分のキャラを一言でいうなら
- ・今一番大切に思っている事（もの）って、なんですか
- ・今日のこの時間で、なにか気付いたことはあったらおしえてください
- ・一年後、どんな自分にいるでしょうか
- ・最後に何か一言お願いします ^^

..... つ

づきは赤木さんのおこたえデス ^^

田中： いろいろお聞きしてもいいですか？

赤木： はい。どうぞどうぞ。

田中： 好奇心でいろいろお聞きしていて。  
小さい頃はどんなお子さんでしたか。

赤木： あの質問リスト、すげーって（笑）  
大変やなって（笑）

田中： 笑

赤木： 小さい頃。好奇心旺盛やったと思います。要は知りたいという、ものごとの成り立ちとか、なぜなのか、みたいなね。

田中： 時計分解しちゃうような子でした？

赤木： 時計は.....理系じゃなかったのでもそこまではやってないですけども。ただ、今の娘を見てると、「俺も小さい頃こんな感じだったんかなあ」と。

田中： 質問攻めにしちゃう感じですか？

赤木： そうやったんじゃないかなと思いますね。でも、覚えてないです、小さい頃は。

田中： 子供が大きくなっていく過程で、思い出すことも結構多いんですよね。

赤木： うん。まあ、やんちゃでしたね。もっと自由奔放で。おふざけ系で。

田中： ふふふ。関西ですしね。

赤木： あんまり出してないですけど、根はそういうところ、あるよなって。

田中： そういったところは、感じますね。

赤木： ありがとうございます（笑） だいたいね、「この人、こういうの持ってるだろうけど、出してない」みたいな。CTIの基礎コースに行ったら、やるじゃないですか。

田中： やりますね。

赤木： だいたい、「お笑い」って言われるんです。アシスタントに入る度に、同じこと言われるんで。

田中： おもしろい（笑） やっぱり、それってノンバーバル（注：非言語のこと）で伝わるんですよね。

赤木： ぼくはそんなんないと思ってるんですけどねえ。おかしいな（笑）

田中： またまたあ（笑）

赤木： ははは。

田中： 今までで一番大変だと感じた出来事（環境）ってどんなこと（時）でしたか。

赤木： それは人生でってことですか？

田中： そうですねえ。

赤木： むっちゃ、大きい質問ですね（笑）

田中： そうですね（笑） そこから何が出てくるのか。

赤木： 一番大変やなって思った時。親父が倒れた時ですかね、病気で。今は元気ですけど。

田中： はい。確か.....ご一緒に住まれてて。

赤木： そうそう。その時、自分の人生を本当に見つめ直したし、振り返った。自分がなんで仕事に強い情熱を持ってやれてたのか？ ほんと一回、人生が崩れたというか。生き方を本当に見つめ直したんは、あの時でしたね。

田中： あー、再構築した出来事。

赤木： そう。一回壊れて、それから「コーチング」、「ソース」に出会うまでの間ってというのが、一番大変。人生曲線を描くと、どん底の時期。



田中： それをどうやって乗り越えたんですか。

赤木： いや、もう「ソース」と出会ったのが一番大きかったですね。「命が今日で終わるとしたら、後悔するか、しないか」という問い。

田中： うん。

赤木： 「今死んだら、絶対後悔する」と思ったんですよ。だったらほんとに後悔のない、好きなことをして生きる人生にしようと思っただけで、それからコーチングと出会って、色々そのあともあったけど、今に至る。

田中： なんか、ぐーっと舵を切り返した……みたいな感じですね。

赤木： そうですね。ほんと、「ソース」のおかげで。ぼくの恩書ですね。

田中： そこで向き合われた時のもの……。私、きっとそれが伝わったんだと思います。

赤木： うーん。

田中： 私も「ソース」が大きかったので。その重大な時にあって、「そうだ」と思ってらっしゃる広紀さんだったからこそ、それが私に伝わって、今の私に至るんですね。脈々と繋がる感じがしますね（笑）

赤木： うん。やっぱ、嬉しいですよ、そういった話を聞かせてもらうのは。

田中： いやあ、ほんとにありがとうございます。  
3つ願いが叶うとしたら、何を願いますか。

赤木： 願いですよね……。どんな願いがあるかな、今。あんまり、パッと出てこないという事は、たぶん今、願いは叶ってるんだなと思うんですわ。

田中： うんうん。

赤木： だから、最近「目標とか、そういうの、あんまないなー」って思った時に、今は願いが叶っている状態なんだなって思います。

田中： そう思うんですね。

赤木： うん。まあ、あと願って言うんなら、もうちょっとお金の心配をしなくてもいいなら、いいかなあと。そのくらいですかね（笑）。

田中： 笑

赤木： それこそ、何を願っているかって、今の状態を観ればわかるとことだから。ね、よく言うじゃないですか。潜在意識が願っていることが、今、叶ってるわけで。

田中： そうですよ。

赤木： うん。「今この状態で、本当に何を願って、この状態になってるんだらうなあ」って。

田中： それすらも、ニュートラルに見てる感じがしますね（笑）

赤木： そうなんですよ。もうちょっと頑張らんとあ。

田中： あははは。何ですか？ それは。

赤木： いや、なんか、なんとなく……何かを待ってるような気がするっていう。

田中： 待ってる？

赤木： 待ってるんですよ。なんか。今のコーチングもずーっとやってきたいっていうのもあるんだけど。

田中： うん。

赤木： なんかフィールドが……。違うフィールドが、違うステージというか。そういうところにも行ってみたいという、欲求みたいなものが出始めてるなあと。

田中： エネルギーの向かう先ってことですね。

赤木： うん。それが何かっていうのは、まだ見えてない。でも全然違うものではないだろうし。

田中： うん。

赤木： そんなに焦りはないけれども、ある面、この形式、形にこだわることなく、アンテナを鋭敏にしておきたいっていうのは、ありますね。で、何かあれば、それを感じとってキャッチ出来るように。

田中： なんか、次のステージが、もう用意されてることを知ってる感じがしますね。うん。

赤木： うん。だから、道としては、「正しい道、自分の道をちゃんと歩けているな」とは思うんで。変に焦る方が、そこにたどりつきにくくなるなあと。

田中： うん。そんな感じですね。水に浮かぶためには、力を抜け……のような。

赤木： うーん。そうですね。

田中： きっとそのアンテナを立てて、キャッチするためには、肩に力入ってちゃダメだよ、みたいな。

赤木： うーん。それあるな。そうですね。それで願いとするならば、エゴが静かになって、いろんなものの繋がりというか、一体感を感じられるような脱力した状態……。

田中： うん。

赤木： っていうのは、願いのひとつです。

田中： 状態なんですね。

赤木： うん。

..... つづく ^^

田中： 何をしている時が一番楽しいと感じますか。

赤木： あー、やっぱり、今やっているセッションというか。会話する中でその人の良さとか、輝きとかが見えた時かな。あるいは、日常生活の中でこんな気づきがあって、こんな変化があって……みたいなことを聞く時が、ぼくは嬉しいですね。

田中： あー、そうですね。なんか日常に起こってこそってありますね。

赤木： そうそうそう。いろんな気づきを起こしてほしいと。それはセッションの中で起きることも、もちろんあるんですが、その人本来の道、本来の姿に近づいて行っている、そういう状態が好きですね。で、本来の状態は何かというと、エゴに振り回されるのではなく、温かい目でエゴを眺めて、エゴが静かになっていく……そういった状態になってほしい。

田中： 今、『静謐』っていう、字が浮かんで来ました。

赤木： うん。さっきの仏像の喩えで言うと、エゴって泥なんですけども。泥を毛嫌いして、それが見えないように金箔を貼るのではないということですね。泥は毛嫌いするものじゃないんです。その奥に輝くものがある。エゴを手掛かりに、その人の奥にある輝くものが見えたらいいなって思います。

田中： その泥を落とすことすら、楽しいですよ。

赤木： エゴを落とすために。本来自分は黄金だったんだということに気づくためには、一旦そうじゃない状態を作り出す。この世界って「陰陽」でできてるんだなって。

田中： 私も時々、世の中ってどうしていろんな人がいるんだろうと、考えることがあります。

赤木： はい。

田中： 普通に考えれば、エゴが少なくてつきあっていくのに気持ちのいい人ばかりのほうが、いいじゃんって思いますよね。

赤木： 思う。思う。

田中： そう思ったりするんだけど、それは『鏡の法則』じゃないですけど、そういう状態を見せてくれて、自分に気づかせてくれる存在として、いるのかなって思うんですね。

赤木： いや、まったく、その通りだと思う。

田中： そうしたことを思った時に、「なるほど、そうなんだな」って（笑）

赤木： なので（笑）不愉快、不快といわれる状態っていうのは、永遠になくならないなと思います。段々と少なくはなりますけども、完全に無くなりたくないし、無くすものではない。

田中： ほんといろんなレベルの人がいますよね。自分からは、あまりにかけ離れ過ぎていて、接点もなくて、理解するための糸口もないような……。だけど、ちょっと近くてリンクする部分があると、そこがきっかけになって、ふと気づくわけですね。「なんでムカッてきたんだろう？言葉かな？」みたいな。そうすると、そこから変化の糸口になることがあったりします。

赤木： はい。

田中： だからいろんなレベルの段階があると思うんです。ステージ1の人だったら、2か3の人に会わないと、気づけない。ステージ10だとあまりに乖離しすぎちゃってて分かんない。そういった意味で、いろんな人がいるのかなって。

赤木： うーん。そうですね。まさに。『鏡の法則』ですね。

田中： 今の自分に大きな影響を与えたと思える出来事を、2つ語って下さい。

赤木： あー……。やっぱり、「ソース」の本との出会いかな。「コーチング」との出会いもそうですし。その後、自己啓発の世界に進むきっかけになったのは、学生時代の「ナポレオン・ヒル」に出会ったことかな。それが縁で、前の会社との接点が出来たんで。これで3つになったね（笑）

田中： はい。ホームページ、読ませていただきました。

赤木： はい。そう。まさにあのホームページの赤木ストーリーに書いてるとおりなんだけども。それが全部繋がってて。そこ（前の会社）で山崎さんに出会ってないと、たぶん今はないし。

田中： 今の自分を突き動かしているものは、何だと思えますか。

赤木： あー。いい質問ですね。今の自分でいうならば、人が自然な状態に戻っていくという。それがあって、自分の周りには過度ではないですけど、自然でない状態。苦しんだり、悩んだりしてる、しんどい状態の人は、多いですよ。自分もそういった部分ってありますし。「自然

な状態になりたいと思うが故に、自分の中のしんどい部分とも出会うんだろなあ」と。

田中： うん。

赤木： それもだんだん分かってきて、「しんどいけれども、まあ仕方ないねえ」っていう。

田中： 持ち続けるって感じですね。

赤木： そう。しんどい状態を、見続けられる。そこから短絡的に逃げようとしなくなったっていうのはありますね。

田中： うん。

赤木： 質問の答えに戻ると、今の自分を突き動かしてるものっていうのは、「人が本来の自分に気づき、本来の人生を生きる」というミッション。それに尽きます。

田中： ミッションですね。

赤木： うん。

田中： 友人とも話していて。いろんなことがあって、自分の中に葛藤とか生じたりするんですけど、そういう「居心地の悪いところに居続けるっていうのは、筋力つくからね」みたいな話になります。

赤木： あー。素晴らしいお友だちですね。

田中： はい。凄くいいんですよ（笑）「まさにそうだよな」って思って。

赤木： いや、こういう筋力って、大事だな。

田中： うん。そうなんです。目を背けたくなるんだけど見続ける。そういう勇気であり、強さであり。

赤木： 筋トレと一緒にだな、と。

田中： まさにそう。

赤木： 感情の筋トレだなど。50キロのバーベル、最初は重くて持ち上がらないんだけど、やっていると上げられるようになり、だんだん苦もなく上げられるみたいだ。

田中： ですね。持てるのが当たり前の状態になってくるというか。

赤木： そうそう。同時に、「あ、持てるわ」ってほったらかしにすると、また持てなくなる。まさに筋トレと一緒に、やり続けることなんだなって。

田中： 最近の私のキーワードは、「淡々とやる」(笑)

赤木： あー。

田中： なので、なんか、とってもわかります。地道なことを……ね。

赤木： 地道なトレーニングをし続ける。

田中： それも体力に合わせたトレーニングというか。

赤木： だから、だんだん「嫌だな」っていうことが減っていく。それが感情の筋力をアップするっていうことになるんだろうなあって。居心地のいい場所ばかりに居続けると、だんだん衰えていく(笑)

田中： 私的には、人から甘やかされたいなって思うんですけど(笑)

赤木： いや、それも大事ですよ。休息ですから、それは。「いいよ。OKだよ」っていう。ずっと筋トレしてたら、筋肉の繊維がブチって切れちゃって、逆に痛めてしまうことになるんで。鍛えると同時に、回復させる時間、両方必要なんだなと思います。

田中： いやあ、バランスですね。

赤木： バランス。はい。

..... つづく ^^

田中： うん。

世界に向けて演説をしたら、何を一番伝えたいですか。

赤木： あー。スピーチを考えると。何を話すかなあ……うーん。

田中： 世界じゃなくてもいいかもしれませんね。

赤木： 今ひとつ浮かんだのは、「あなたは考えではない。思考ではない」かな。つまり価値観でもないし、思い込みでもないっていう。要は、あなたは本来、言葉で定義できる何かではない。本来の自分というのは、数字が無限に続くが如く、言葉で定義できるものではない……というようなこと。

田中： ですね。NLPでいえば、「地図は領土ではない」みたいな。

赤木： そうですね。そういう定義、要は「あなたはセルフイメージではない」っていう。

田中： うん。

赤木： 「苦しみを生み出してるのは、あなたの考えなんだ」ってこと。捉われからの解放といったことを伝えたいのかな。

田中： 生まれ変わったら、男と女、どちらがいいですか。

赤木： ほー……どっちやろうなあ。

田中： ふふふ。

赤木： ……やっぱり、まあ。違う方がいいかなあ。なので、今度は女で（笑）

田中： 人間以外のものに生まれ変われるとしたら、何がいいですか。

赤木： 人間以外？ 鳥ですかね。

田中： 鳥。それは？

赤木： 高いところを飛べる。



田中： 飛べるという事が魅力？

赤木： そうですね。だから、雄大な鳥がいいな。雀とかじゃなくて、鷹とか、コンドルとか。

田中： なんか、「視野」というのも浮かんで来ましたね。

赤木： やっぱり飛行機とか乗ると、下が広々とみえる。雲の上とか。あれは、やっぱりいいですね。

田中： 広いところを観てらっしゃるんですね。

世界で何かひとつ完全に消滅させられるとしたら、何を消し去りますか。

赤木： すっごい質問だなあー。そうねえ、消滅……うーん、もう、なんか世界そのものと言った方がいいかな。

田中： あははは。消しちゃうんですか？（笑）

赤木： うん（笑）もう、ご破算にして。

田中： ご破算にしちゃう。え、じゃあ、次に何を作り出したい感じですか？

赤木： また別の宇宙を。いちから立ち上げるみたいな？

田中： 最低限、入れてくものとしたら、何を入れていきますか？

赤木： ノアの方舟みたいやね。うーん……いや、たぶん……どうだろうな。更地にするって感じかな。だから何も残さないかな。ひとつの宇宙を全部きれいに消滅させて、もう一回新たな宇宙を造り出すというぐらいのことを、したいですね（笑）

田中： ふふふ。壮大ですね。

赤木： うん。神だな（笑）

田中： うん。やっぱり変化を。そこから何が生まれるのか、そこに好奇心が向いてらっしゃるんだろうなあって感じがします。

赤木： そうですね。だから、リフォームも好きなんだけど、なんか増築、増築で使い勝手がど

んどん悪くなるみたいなことがありますね。だったら、一回更地にして、もう一回建て直そうよと。だから、あの「ビフォーアフター」って番組、好きなんですよ。

田中： うん。おもしろいですよね、あれ。

赤木： 大好きで（笑）

田中： 床めくってみたら、ぐずぐずだった。やってること「もうリフォームじゃないじゃん」（笑）

赤木： 「リフォームの域、超えてるよ」みたいな（笑） だから、「もうゼロから作り直した方が、早いinchょう？」っていうのは、あるね。

田中： 分かります。うちもリフォームした時に、リフォーム会社の人も言ってました。「最初から作る方が、簡単だ」って。

赤木： だから、全部ぶっ潰して、配管から何から新しいものに替えた方が、いいんじゃないっていう思想なんです、ぼくは。

田中： うん。

赤木： ある面、世界の破壊者ですよ。

田中： んふふふ。おもしろい。仏像とか宗教のお話しとかもあって、とっても静かなところもあるんですけど、それと同じぐらい破壊力のあるハンマーも持ってるし（笑）

赤木： あはははは。そうなんです。そうそう、インドに「シヴァ神」という神様がいらして。

田中： あー（笑）

赤木： これ、破壊の神様です（笑） でも同時に、破壊というのは、何かを新しく生み出す素地になるということでもあるんで。

田中： 進化するために、必要なものでもありますね。

赤木： うん。毛虫も、毛虫の状態を一旦破壊しないと、蝶は生まれないわけで。そういう意味では、ぼくがコーチングセッションでやってることは、過激な言い方だけど、ある状態を破壊す

ること。

田中： うん。

赤木： で、別の状態を再生するという。トランスフォーム。変容。

田中： 破壊と再生。

赤木： 破壊と再生。うん。

田中： 変化って、そうですね。今の状態が崩れて変わることが、変化ですね。

赤木： まあ、それは『変容』と言った方がいいかもしれません。『変化』は連続的なものもあるんで。

田中： あー、そうですね。

赤木： 積み上げていくというのじゃなくて、根本的に変わる。

田中： 変容の方が、より深いですね。より根源的な。

赤木： うん。そこに破壊が伴うとなれば、普通は怖気づく。でも、コーチングに来る人って、ある意味、イッパイイッパイな状態になってる感じの人が多いんですよね。「もうどうしようもない」みたいな。

田中： うん。

赤木： つまり、自分がある意味、破壊する覚悟ができている人が来るんです。

田中： じゃあ、「容赦なく壊せ」と。

赤木： うん「容赦なく」（笑）

田中： いやあ、シヴァ神の辺りから、エネルギーが上がってる感じがしますね（笑）

赤木： ははは。まあ、それで斬った部分は全部自分に返ってきますから。だから、自分も斬られるという覚悟を持って。相手を斬る＝自分を斬ることですから。

田中： でも、斬った先にあるものを確信出来ているからこそ、斬ることが出来るって感じがしますね。そこは確信を持ってね。

赤木： いや。でも、嫌がる人の気持ちもよくわかる。やっぱり斬られると痛いから。

・・・・・・・・ つづく ^^

田中： 確かに、痛かったりしますから嫌がる人もいるでしょうね。  
自分の性格を象徴するようなエピソードがあったら、教えてください。

赤木： 大きい質問ですねえ、相変わらず（笑）

田中： はい（笑）

赤木： エピソードねえ。性格と言われても、最近自分の性格がよく分からなくなってるし（笑）

田中： 人間って、多面体ですもんね。

赤木： はい。そっすねえ……性格かあ。

田中： あははは。すごい悩んでる（笑）

赤木： すごい悩むね。

田中： 今、この質問表を見てたら、答えづらいものばかりですね（笑）

赤木： うん。非常に答えづらい。いったい、俺ってどんな性格なんだろうって？

田中： じゃあ、パスしますか、これ。

赤木： いや、もうちょっと考える……。うーん、最近、「自分って、ないんだなあ」みたいな感じかなー。

田中： ひとつことでは表現しきれないってことですか？

赤木： ひとつことで表現しきれないし、そもそも「自分なんて、いるのかなあー」って感じ。

田中： あー。この間、インタビューさせていただいた方が、「価値観や自分といったものは、所詮その時その時で、それを選択してるだけのものだ」って話をしてらっしゃいました。

赤木： あー。素晴らしい。うん。

田中： とってもボーダーレスで。すべての事っていうのは。これ次回アップする方なんですけ

ど「モリーさんの火曜日」って物語があって、そこの中でのエピソードをお話し下さって。

波が岸壁に打ちつけられて、粉々になる。ある波がこのまま岸壁にぶつかると、なくなっちゃうんじゃないかって怖がっている。そしたらその波に対して、海が「打ちつけられてなくなるかもしれないけど、あなたはみんなの一部なんです。恐れることはないのよ」って。

彼がそれを読んだ時に、自分の身体って宣言してるけど、動くから自分の身体だと思ってるけど、神経切れたら動かなくなるし、これは自分の身体って思ってるだけで、違うかもしれない。だから死ぬっていうことも、コップが割れるようなことで、中に入ってるものが割れて流れ出すけども、それは「なくなるわけじゃなくて、何か大きなものに戻っていただけなんだよ」って。

赤木： うん。まさに、そんなイメージが最近ずっとあって……。

田中： うん。

赤木： 僕らっていうのは、「海水を入れた瓶なんだなあ」と。でも一言で海水と言っても、海も深いところと浅いところでプランクトンとか、成分が違うんですよね。温度も違うし。全部、海水なんだけど、場所場所によって違う。だから、瓶ですくいあげてキャップすると、それぞれの瓶の海水の成分が微妙に違う訳ですよ。それが人間の個性。で、だんだん瓶がボロボロになっていって、最後は割れて中の海水が海に戻っていく。

田中： ええ。

赤木： だから、どっちが本体なのかっていうと、たぶん海なんでしょうね。要はエネルギーなんだと、本体は。そのエネルギーが今肉体という瓶の中に入っている。肉体は器なんですね。

田中： そうですね。

赤木： 逆に言うと、本来それだけの広大なエネルギーをそこに閉じ込めることによってしか出来ない体験があるわけで。それを体験するために。「この世っていうのは、いわゆる器に入るという体験なんだなあ」と思うんですけども。

田中： あー。そうですね。時々、「人間ってどうして感情を持ってるんだろう？」って思う事があります。

赤木： ほう。

田中： 私、ねこ飼っているんですが、動物を見ると、快不快はあるんですけど感情はない感じがするんですよね、あんまり。生理的な反応、お腹すいた、撫ぜられて気持ちいいとかあるんだけど、感情的な「嫌だ」とかはない感じがします。でも、人間には感情があって。それは「なんでかなあ？」って。

赤木： うん。

田中： それはまさに、広紀さんがおっしゃったみたいに「体験するためなのかな」って。ある価値観だったり、その行動した時に起きてくる反応。だからそういうものがなければ、ただ生きてるだけ。でも、そこに感情が入ってくことで、彩（いろどり）になるのかなあって。そういうことを考えたりしてます。

赤木： 彩かあ、ステキな表現ですねえ。

田中： 今一番大切に思っている事（もの）って、何ですか。

赤木： やっぱり家族との時間ですかね。それも大事ですし……。

田中： 今、何が浮かんでるんですか？

赤木： いや、何を大事にしてるのかなあって。やっぱり、好きってことになってしまいうんですけど、対話をしている時間かなあ。それによってエネルギーの繋がりを感じられる時間・瞬間っていうのが、やっぱり大事なんですよ。

田中： 広紀さんの好奇心というものも、何か感じますね。すべてに。根底に流れているものって、なんだろうって。なんか、それが大きい感じがしました。

赤木： いろいろ質問受けて思ったのは、「あんまりオレ、何も考えてないんやなあ」っていうことが。

田中： 笑

赤木： たぶん、答えはあるだろうけど自覚はしてないんだねっていう、うん。

田中： 車を運転されている時に、さっきのニュートラルじゃないけど、あの時ってアクセルに足のつけてるだけですもんね。

赤木： うん。車の運転でいうなら、最初の頃はいろいろ考えて運転するけれど、もうあれこれ考えてないってどうか。自動操縦状態になって。

田中： そうそう。

赤木： まあ、いろんなことが自動操縦状態になってしまってるんだなあ。そういう意味では、もう一回見直すっていうのは大事ですよ。こういう大きな質問に答えるっていうような（笑）

田中： あははは。なんですか。ちょっと反省の色が？（笑）

赤木： いやいや（笑） そうやなあ、改めて、何が大事なんやろってことを。

田中：ほんとにありがとうございます。広紀さん。最後に、この時間で、何か気づいたことはあったら教えてください。

赤木： いや、もうなんかいろいろありすぎて（笑）一言では、言えません。

田中： いろいろありすぎて（笑）

赤木： はい。いろいろありすぎて、一言では言えません（笑）

田中：ほんとにありがとうございました！



最後までお読みいただきましてありがとうございました。

今回、あなたの心の内側では、どのような気づきがありましたか。

少しでもみなさまのお役に立てましたら幸いです。

さて、私にはこのインタビュー記事の電子書籍出版のほかに、

『コーチング』 という専門職の顔も持っています。

実は、今お読みになられたインタビューそのものも、このコーチングの考え方に則って行っています。

コーチングとは、人材開発のための手法のひとつで、

おもに対話によって相手の自己実現や目標達成を図る体系的な技術のことです。

相手の話を聴き、感じたことを伝えて承認し、相手に適切な質問をすることで、

クライアントの自発的な行動を促していくことができます。

日本にはいくつかのコーチングスクールがあります。私はCTIというコーチングスクール

でCPCC（Certified Professional Co-Active Coach）という国際資格を取得しています。現在、日本では約550人のコーチがCPCCの資格を取得し、世界中では6,900人のコーチがこの資格を持って活躍しています。（2014年6月現在）

また、『人間の脳の取り扱い説明書』とも称される実践心理学 『NLP（神経言語プログラム）』 も学び、

米国NLP協会認定トレーナーアソシエイトの国際資格も取得しています。

このNLPとコーチングはとても親和性が高く、相互に相乗効果を発揮して、クライアント様の変化変容、

目標実現に大きく寄与していると評価を頂戴しています。

その他、ソースワークショップトレーナーの資格も取得しており、クライアント様に

「本当に生き甲斐のある人生とは何か」 を見定めていただくためのサポートもさせていただいております。

しばらく新規クライアント様の募集は諸事情によりおやすみをさせていただいておりましたが、このたび、また新規クライアント様の募集を再開させていただくことになりました。

もし、少しでもご興味やご関心がおありでしたら、無料体験コーチングを受講なさってみませんか。

今なら1回60分のコーチングセッションを無料でお受けしております。

これまでも、たくさんの経営者様、事業家様、サラリーマンの方、もちろん主婦の方々までコーチングをさせていただきました。柔軟なアプローチと揺るぎない信頼関係。これが私のコーチングのスタイルです。

あなたの目標達成はもちろん、日常生活でのメンタル調整に、思考や判断の整理に、コーチングやNLPは素晴らしい効果を発揮します。私にあなたのサポートをさせていただけるのであれば、これに優る喜びはありません。あなたからのお問い合わせを心からお待ちしています。

無料コーチングセッション、その他のお問い合わせはお気軽にこちらから。

< [ace-support@samba.ocn.ne.jp](mailto:ace-support@samba.ocn.ne.jp) >

最後までお読みいただきましてまことにありがとうございました。

ハタラクヒトペディア電子出版

記者兼編集長 田中永子

ハタラクヒト\*ペディア 11 < 赤木広紀氏 >

<http://p.booklog.jp/book/81033>

著者：田中永子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/24riko/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/81033>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/81033>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ